

2011年(平成23)6月

カルメル
霊性センターニュース



2011年6月

266号

DE IMITATIONE CHRISTI
キリストにならう バルバロ訳



第一巻

第二十章 孤独と沈黙とを愛する

7 すべては過ぎ去る

なぜ、持つてはならないものを、見ようとするのか？「世は過ぎ去る、同時にその欲も」(一ヨハネ2・17)。

五官の欲求に引かれて、人は外出に誘われる。しかし、その時が過ぎ去れば、重くなった良心と、散漫な心以外に何をもち帰るのであろうか。楽しい外出は、悲しい帰りになることが多い。夜の楽しいひとときは、悲しい朝を迎える。このように肉の快樂は、甘く忍びこみ、最後にはその人をかみ殺すのである(箴言23・31-32参照)。

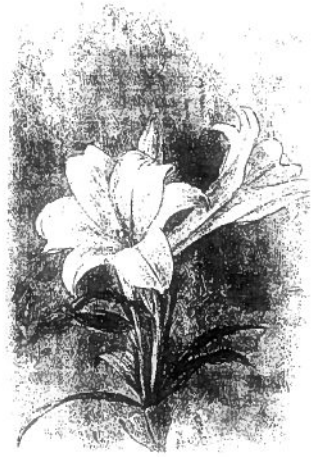
ほかのところで見たいことは、ここでも見えるではないか？天地とそのすべてのものを見なさい。それによって、ほかのすべてが成り立っている。

8 神との親しさ

永久に存続するものを、太陽の下のどこに見つけることができるであろう？見て味わえば満足すると、おそらくあなたは思うであろうが、実はそうではない。たとえ、いちべつのうちに全宇宙を見るときでも、それははかない幻影以外の何ものであるのか？口を高くあげて、神を仰ぎ、あなたの罪と怠りとのゆるしを願いなさい。はかない事柄は、はかない人々に任せなさい。そしてあなたは、神から命ぜられたことを一心に努めなさい。あなたのうしろの扉を閉め、愛するイエスを、あなたのそばに招きなさい。あなたの部屋のなかで、イエスと共にとどまりなさい。ほかのどこにも、それほどの平和を見いだせないであろう。

あなたが外出せず、世間の声に耳を貸さないならば、さらに聖なる平和を保つことができるであろう。ときどき新しいことを聞きたいと思うと、それだけ心が乱されるのだということを知りなさい。

心の泉



聖霊が

あなたがたの上にくんだり
なるべく早く

「聖霊は わたしの友
わたしの光
わたしの師」
と言えるようになる恵みを願いたい

—幼きイエスのマリー・エウジェンヌ ocd—



六月を迎えますとすぐに主の昇天を迎えることになります。イエスは天に上げられる前に使徒たちに言われました、「父の約束されたものを待ちなさい」と。そのことばどおりにマリアと使徒たちは祈りのうちに「約束された」霊を待ち、真理の霊が与えられました（使徒行録1，2）。こうして教会は特に主の昇天から聖霊降臨までの9日間（ノヴェンナの祈り）聖霊を願い求めます。

生前マリー・エウジェンヌ神父は真理の霊、愛の霊に満たされ、魅了されていました。

わたしはあなた方のために聖霊を願いたい。聖霊があなたがたの上にくんだり、なるべく早く、「聖霊はわたしの友、わたしの光、わたしの師」となる恵みを願う。*

社会での日々の生活ではとかく生産性、効率性が問われ、能力、素質が重要視されます。いつかその価値を生きようとあせります。次のマリー・エウジェンヌ神父の言葉を思い起こし、心に刻みましょう。

生まれつきの素質が何であろうと問題ではない。最も重要なのは、聖霊にとらえられ、この愛の霊によって変容されることである。

* 列福を願う祈りのご絵より

聖霊降臨を前に、聖霊がわたしたちをとらえ、その愛の霊によってわたしたちを変えてくださるよう願いたいと思います。聖霊がわたしの「友、光、師」と言えるまでに。

伊従 信子

ノートルダム・ド・ヴィ

* 「聖霊を友に」小冊子 200円

* 列福を願う祈りのご絵より 無料

上野毛黙想の家にあります。又は祈りの集いノートルダム・ド・ヴィにて

エデンの園 (9)

くのり 彰

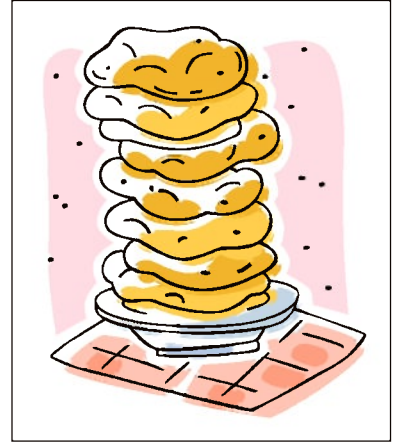
自己意識は、自分を他者と比べることで、より明確なものとなる。身体の大いなる人の中では自分の小ささが自覚されるであろうし、幼い子供と接していれば、自分がいろいろな面でもはや子供ではないことに気づかされるかもしれない。あるいは子供の無邪気さに触れて、自分の心の汚れや醜さを意識するかもしれない。この場合の他者の中には、人間以外の動物や植物、海や山や空など、いっさいの存在者が含まれるであろう。それらを認識する時、自分が何ものであるかをさらに深く意識することになる。

前回指摘した「放蕩息子」のたとえにおける兄と弟は、「ファリサイ派人々や律法学者たち」と「徴税人や罪人」を指していることは、聖書本文から明らかである（ルカ 15・1）が、私たち人間の中にある二つの側面と取ることもできる。「弟」が自分の欲望のおもむくまま、好き勝手な行動をとるのに対し、「兄」は欲望をおさえ、自分を超越する規範、神の律法に忠実に従う。前者は本音だけ、後者はたてまえだけ。二人とも「父の心」からは離れている。キリストは、どちらに対しても回心を望んでいる。

「兄」は「弟」を裁き、「弟」は「兄」に裁かれる。裁く「兄」は自分が正しい人間だと自負しているのに対し、「弟」は自分が罪人であることを何とも思っていない。たとえば、罪の自覚があり、回心した罪人がテーマになっているので、「罪の自覚」が触れられているが、多くの人はその自覚がないと言っているだろう。あるならば、「お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。雇い人の一人にしてください」と思い、「父」のもとへもどることであろう。多くの人には「兄」であり、絶えず人を裁いている。

「兄」も「弟」も、現代の社会に見ることができると同時に私たち自身の心の中に見ることもできる。つまり、現実の世界において目に見える形で罪を犯している罪人もいれば、表面的には何も悪いことをしていない多くの人々がいる。しかし、後ろに手をつながれるような悪いことをしていない人々、すなわち「兄」も、ひとたび自分自身の言動を内省するならば、自分の中に「弟」を見出すのである。私は「兄」であり、「弟」なのである。そこで、自分が自分を裁くことになる。だが、激しい自責の念は、それだけでは救いはない。自分で自分を責め、自分を赦さない。 (続く)

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（144）



神の寛大さ

神は豊かさの神であって、欠乏の神ではありません。イエスが、残ったパン屑で12の大きな籠が一杯になるほど、たくさんのパンを人々に与える時（ヨハ6:5-15）、弟子たちが、船が沈みそうになるほど、たくさんの魚を取る時（ルカ5:1-7）、神の豊かさが私たちに示されています。神はちょうど十分な量を私たちにくださるのではありません。神は私たちに十分である以上の量を、すなわち私たちが食べられる以上のパンと魚を、私たちが要求している以上の愛をくださるのです。

神は寛大な与え主ですが、私たちが、心と思いと力を尽くして神を愛する時のみ、神の寛大さを見たり、味わったりすることができるのです。私たちが、「神よ、私はあなたを愛します。でも、まずあなたの寛大さを示してください」と言っている限り、私たちは、命であり、あふれるばかりの命である神が、真に私たちに与えたいと思っているものを体験することもできず、神から離れたままでいることでしょう。

(0505)

パンの増加の奇跡を見ること

欠乏のメンタリティーの反対は、豊かさのメンタリティーです。私たちが豊かさのメンタリティーならば、こう言います。「だれに対しても十分あります。十分以上のものが、食べ物や知識や愛や…なんでも」。この思いで、出会うだれに対しても、持っているものを何でも贈り物として与えます。飢えている人々を見れば、食べ物を与えます。無知な人々に会えば、知識を分かち合います。愛を必要としている人々に出会えば、友情と愛情ともてなしを与え、私たちの家族や友人に紹介します。

私たちがこのような思いで生きるならば、私たちが贈り物として与えるものすべてが、すなわち、食べ物や知識や愛や…すべてものが増加する奇跡を私たちは見ることでしょう。そしてたくさんの残り物もあることでしょう。

(0507)

(九里 彰訳)

主の昇天 A マタイ 28, 16-20

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ 28, 20)。

これは、「マタイによる福音」の最後の言葉です。この福音書の始めに、イエスの誕生は、「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる」との預言者の言葉の成就であるとし、「この名は、『神はわれわれと共におられる』と言う意味である」と解説していました(参照マタイ 1, 18-23)。しかし、預言の成就の充満は、ベトレヘムの馬小屋での母マリアからの誕生にあると言うよりは、受難と死を経て、復活において実現化されている、これが全聖書の主張ではないでしょうか。旧約では、出エジプトのとき、神がモーセに与えられた約束が思い起こされます。「わたしは必ずあなたと共にいる」(出エジプト 3, 12)。それで、約束の地に向けての旅の全過程に伴い、人間には絶望的と見える状況にも新しい未来を造り出しつつ民と共に歩む、民の変遷への神の断固とした参加を、モーセへの約束のうちに見るのです。モーセに導かれて始められ、完成された出エジプト、そして約束の地への入国の旅は、イエスの死と復活、過ぎ越しの前表です。そうであれば、イエスの昇天、それは、イエスとの別離であるというよりは、イエスにおける神の取り消すことのない人間たちと共にいるとの約束、より親密で、緊密な交わり、イエスの現存、「いつも共にいる」の秘義の成就なのだ、と言わなければなりません。

いつも、わたしたちと共にいてくださるイエスが、どのような方として、どのような働きをしつつ、わたしたちの側に共にいてくださるのか。これを、マタイは、イエスの地上での生活を描くことで語ってきたのです。そのイエスは、人間の憧れ、期待、欲求、欲望の投影ではなく、また、単なる理論、理念でもなく、上から、神の方から人間に与えられた賜物でした。イエスの生涯を、今、わたしたちは描き出し、映像化することもできるでしょう。しかし、もし、福音書が与えられていないと仮定して、人間が自分たちの期待と価値観、想像力だけで「救い主」像を描き出したとしたら、福音書のイエス像とは相当かけ離れたものになっているのではないでしょうか。少なくとも、福音の教えの核心部分、たとえば、「山上の説教」は、現行のものとは異なっているでしょう。そもそも、十字架の死、復活は、影もなかったでしょう。イエスの昇天は、全人類と世界が、日々、模索しつつ歩んでいる旅路の将来を思いもかけない新しき向けて切り開く鍵なのです。ルカ 渡辺幹夫

聖 霊 降 臨 の 主 日 (A)

彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。」(ヨハネ 20 : 19-23)

聖霊降臨の祭日は、以前、敬虔なユダヤ人たちが各々の故郷からエルサレムの神殿に向けて巡礼の旅をしたころの巡礼者の祝日でした。この祝日は過ぎ越し祭から数えて7週間後または50日後に祝われていました。このユダヤの暦にある大切な祝日は、キリストに従って生きる人々の、その歴史に残る最初の、記憶すべき公の出来事の日となりました。それは、イエスの弟子たちが聖霊の賜物を受けた大切な時ですが、またそれは12使徒が公の立場でイスラエルの12の部族と対面した最初の機会でした。弟子たちが、彼らが受けた聖霊の力によって、復活したキリストを証した大切な時なのです。

この聖霊の賜物を通して、イエスは私たちにその絶え間ない現存を確信させてくださいます。これはイエスが別れを告げられたにも関わらず共にいてくださる理由です。今日の福音の中で、復活のイエスは恐れている弟子たちの真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と二度重ねて挨拶なさいます。このとき、イエスが逮捕されて以来、イエスの仲間であることを隠し逃げていた弟子たちは皆イエスによって赦され、イエスから、ご自身が御父から託されていた宣教の使命を続けるようにと命じられました。イエスを捨てた弟子たちでしたが、イエスは彼らを裏切ることはありません。神の創造の業の記念として、イエスは彼らに息を吹きかけ、聖霊の賜物と新しい生命の賜物をお与えになりました。弟子たちは新に創りかえられた者となったのです。

聖霊の賜物によって弟子たちには罪を赦す、またはこれを繋ぐ任務が与えられました。「罪を繋ぐ」とは法律上の行為ではありません。これは聖霊の賜物を通してイエスご自身がされたように、この世の罪を取り除き、悪の力を暴露し管理する力を弟子たちに与えられたということです。主イエスに倣って為される弟子たちの正しい愛にみちた行為は、天の御父の無条件の愛を伝えるものとなるのです。

五旬祭の日に、使徒たちが語っているように、神の霊一霊を通しての神の無条件の愛一が弟子たちに下り、各々のうえに留まりました。これによって、彼らは(そして私たちは)再び一致へと導かれるのです。私たちの間にある文化、生活環境、経済状態、国民性などの相違、格差、隔たりは“激しい風が吹きつけ”散らされてしまいました。舌の形をした炎はそれらを焼きはらいました。彼らの国籍や文化の違いは問題ではありません。皆は自分の国の言葉で同じメッセージを聞くのです。それは唯一の、赦しと愛の言語です。

この愛がもたらす一致は、使徒パウロのコリントの信徒への第一の手紙に要約されています。聖霊は、私たち一人一人の中で、常に新鮮に、常に新しく働き、私たち自身の生活の言語を愛の言語に変えようと待ち構えておられます。

(Sr. Paulina)

三位一体の主日A ヨハネ 3, 16-18

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された」(ヨハネ 3, 16)。

この言葉は、ある夜、イエスを訪ねたファリサイ派に属するユダヤ人議員ニコデモとの対話に続くイエスのお言葉の文脈に置かれています。対話とは、少なくとも二人の自由な人格の間に成立するものです。それは、互いに相手を尊重し、生かすことを求めて行われるものであり、相手を言いくるめ、相手を自分の意のままに屈服させることを求めてではありません。対話によって、わたしも相手も、両者共に真実な自己、自由を享受するペルソナ(人格)になってゆく、これを願っているのです。イエスとニコデモの対話も、「永遠の命を得るため」、言い換えれば、永遠の命を先取りしているように今日の地上の命を生きる自己形成を目指してのことです。彼は、イエスに言います。「わたしどもは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神が共におられるのでなければ、あなたのなさるようなしるしを、だれも行うことはできないからです」。彼は、イエスと神の関係を模範的な「イスラエルの教師」として、創造から終末の完成に至るまでを導く唯一の源泉、唯一の神の信仰宣言の線上で、つまり、旧約の神体験に忠実な方法で理解しています。そして、イエスも、ニコデモの理解をとがめず、むしろ完成しようとされます、その唯一の源泉が、ペルソナ間の出会い、対話であり、両者の間の愛のまどい、交わり、一致であると。これは、神の唯一性に固執する旧約の次元に止まる人間には見えづらい展望です。イエスは、この開示を対話の体験の中でなされたことは、対話が、異なる二者が共に真実な自己に成長してゆき、真実な一致に達する過程であるとするれば、重要なことと思います。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された」。

「神」である父には、「独り子」として接する方があり、「世」への愛を軸にする両者の間に対話があります。御父は、愛の至高の現れとして「子」を世に与え、御子は、その御父の御旨に従順し、「十字架の死」に至るまで、「世」にご自分を渡される。実に、十字架の上の死の時、罪の世がイエスを抹殺した、と見えた時は、真実には、「成し遂げられた」(ヨハネ 19, 30)、御父と御子の愛の対話の頂点を開示された時です。そして、イエスは、「頭を垂れて息を引き取られた」、直訳では、「息(霊)を与えきった」となります。そして、あのニコデモが登場し、没薬と沈香をささげ(ヨハネ 19, 39)、御父と御子と聖霊の唯一の神の愛に自分を開き、礼拝するのです。ルカ渡辺幹夫

キリストの聖体の祭日 (A)

わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、わたしの内におり、

わたしもその人の内にいる。 (ヨハネ6：51-58)

キリストの聖体の祭日は通常エウカリスチア(感謝の祭儀)の祭日と考えられています。これは確かに真実である一方で、この祭日の理解をミサの典礼に限定してしまうことには間違いがあります。この祭日は典礼を超え、生命そのものに向かうものです。

エウカリスチアは秘蹟であり、いけにえでもあります。エウカリスチアは、その中でまたそれを通して、恵みのいのちを私たちと分かち合ってくださいるキリストと出会う外面的なしるしです。キリストはパンとぶどう酒のしるしを通して、人生の旅に対して私たちを養い、強めてくださいます。私たちは人間の目ではパンとぶどう酒のように見えるものを見ます。信仰の目ではパンとぶどう酒ではなく、復活され生きている主キリストを見ます。エウカリスチアはいけにえであり、聖金曜日のキリストのいけにえの死、及び復活の日曜日のキリストのご復活の再現です。

本日の聖書の朗読では、神がその民とどのように契約したかを強調しています。最初はモーゼを通して、次に、最終的に、永遠にキリストを通して、キリストの血によって封印された契約です。契約、すなわち神と私たちとの間の愛の絆は、エウカリスチア或いはミサを通して、また神と私たちとのその中で毎回新しくされ、深められます。聖アウグスチヌスは、彼の教区民たちに度々エウカリスチアの食べものの特性について強調しました。私たちが食べる普通の食べものは私たちの部分になりますが、エウカリスチに与ると私たちがイエスの部分になると彼は言っています。私たちは、よりキリスト者らしく、より忍耐強く、より親切になり、より寛大で分別があるようになります。私たちは普通の生活をしているのですが、私たちの態度や行動を励ますのは私たちの主です。私たちはキリストの目を通して人や出来事を見るようになり始めます。キリストが考えるように考え始めます。イエスがこの地上にいらしたときにはイエスは人々に触れるためにご自分の手を使われましたが、今日困窮している人々に触れたいと望まれるとき、イエスは私の手、あなたの手を使われます。

確かに私たちは悲しんでいる人、怒っている人、惨めな人、無視され疲弊している人、不法に訴えられている人、宗教的な狭量、民族的憎しみやテロ、人種的差別などによる暴力の犠牲になっている人々と分かち合うとき、新しい何かに飢え渴きます。私たちは本当に平和に飢え、この困難な世界で和解に渴いています。私たちは新しい世界、お互いがみな神の子である兄弟姉妹のつながりを認め合う世界に飢え渴いています。この新しい世界の約束はイエスが「わたしの肉を食べわたしの血を飲む者はわたしの内におり、わたしもその人の内にいる。」と言われた時の非常に強い語句で明らかにされます。

ですから、キリストの聖体の祭日は私たちの三つの重要な信仰にまとめられます。第一は、これが一番重要なことですが、神は真の神、真の人であるキリストのご人性の中に物理的に存在されるようになったことです。第二は、神は神の民の中に、キリストの教会のうちに、キリストの神秘体を形成するものとして現存し続けられることです。そして、第三は、神はミサのとき祭壇上でパンとぶどう酒の形で現存されることです。ですから、エウカリスチアは単に聖堂で始まり、終わるような事柄であるべきではありません。キリストとの霊的交わりの最も深い表現となるべきです。

(Sr. Paulina)



Ascension
Giotto



Pentecostes
El Greco

6月5日 主の昇天

6月12日 聖霊降臨の主日

桜花爛漫から辺りは瑞々しい青葉へと季節が移り、変わることなく繋がりゆく自然の営みに心留めます。

被災地でも瓦礫の泥の中からクロッカスの芽が吹き出たこと、津波に流されて横倒しのままの桜の木に見事な花が咲いたことなど、希望に満ちるニュースが届き、見聞きする私たちも勇気づけられます。支援の志も日本国内のみならず世界各国からさまざまな分野、さまざまな形をもってたくさんに寄せられて人の心の温かさ、そしてそこにある人の心の悲しみに涙することしばしばです。

復興の歩みは、困難のただなかで確かに始まっていると誰しもが心強く思っていることです。

そういう中で強烈に私の心を捉えたひとつの哀悼の発言がありました。それは復興という現にある大きな流れからすれば一見不協和音とも思えそうな激しいプロテストでもあるのですが、しかし、その底にあるのはプロテストの激しさに見合う魂の悲痛であり、痛みの人、死者を想う慟哭であると感じます。

NHKテレビに「こころの時代」という番組があります。作家の辺見庸氏が出演されていました。辺見氏は以前にもこの欄で触れたこともあり、私にとっては気にしている作家であるのですが、それにしても画面から伝わるただならぬ迫力に圧倒されながら、息をつめて聴き入り、見入りました。

「瓦礫の中から言葉を」—私にとっての3・11—と題されていて、一時間を独白として語られました。

辺見氏は石巻市を故郷に持ち、ご自身は「記憶の根拠としての石巻市」と表現されます。

この度の大災害の、水の仕業とは思えないような度はずれた巨大な力を前にして、それを表わす言葉が数字以外にはないこと、破壊の光景はただ泣き叫ぶ以外に表わしようがないこと、しかし、これを表わす言葉がとにかくほしい、必要なのだと、氏は切に問われます。人が物化されて、身体の形をとどめない部位となつてばらばらに流されていくというすさまじい破壊。人間のいのちの予定されないこと。また何という短さかということ。その人間のいのちと悠久の宇宙のいのちが肌と肌とすり合わせ重なっていることの恐怖、恍惚。これ等のことを前にして、我々は言葉を失うのではなく初めからこれを表現する言葉を用意していなかったのだ。この悲劇を伝え得る報道があったか。

我々は予感しなかった。大自然も核も。予感せずに我々の言葉はこれまで何を語り、何を作り、何を生きてきたのか。今、何としてでも死者に対しその一人ひとりの胸の底に届くふさわしい言葉を、たとえ未完であっても届けなければならない。そのためにはこの絶望、この悲嘆を浅いままにしてはならない。一段と深めて魂の質に合った言葉を探すべきだ。絶望できることは人間の能力だ。破壊された廃墟という外部に対応する内部を自らの手であなぐり掘り進めることだ。これは国難ではなく民族ではなく大和魂ではなくあくまでも「個」でなくてはならない。「私」の実存に見合う内部をこしらえることなのだ。

辺見氏の言葉のひとつひとつに私は鋭くたたかれました。どう云ったらいいでしょうか。私はきっといつの間にか居眠りをしていましたのです。そこへ強烈な一撃をくらって目が覚めたというのでしょうか。人に対してもまた自分自身に対しても誠実さ、想像力、すべてが居眠りして思い、言葉、行い、怠りによって、浅はかにいい加減に坐りこんでいたと気がつきます。

辺見氏は破壊された世界を筆力は追いつけないかもしれないが何としても書きたい、書こうと思う、それが痛みの人に対する自分がなし得る唯一の誠実のあかしであるときり返し云われます。

私の魂も辺見氏に倣って、限りない無力の悲しさを追って内部を掘り進めねばならないと思います。それは、眠ってはならないこと、目覚めていなくてはならないということです。開けたい、明けたい、空けたい、と願いながら今主イエズスへと目を挙げます。

「信じます。不信仰なわたしをお助け下さい。」

辺見氏の身を砕くような誠実さに触れ得たことは、ほんとうに幸いでした。言葉は単なる道具ではなく、人に対する関心の現れであると氏は強く宣言されます。

番組でも紹介されましたが、大災害の後（4月18日）に脱稿されたという二篇の詩、「どれかひとつだけ教えてほしい」「死者にことばをあてがえ」は心震え、圧巻です。

（来月号にお伝えできればと思っています）

…ケリトの水にうるあされて…

カルメルの聖人たちの祈り

23. 福者テトス・ブランズマ (1881-1942) — その6

福者テトスは、1881年2月23日、オランダ北部のフリースラント州(フリジア地方)に生まれた。オランダではカトリック信者は少なく、当時、カトリック信仰が禁じられていたにもかかわらず、家族は熱心なカトリック信者であり、フランシスコ会に入会した兄と、修道女になった三人の姉妹がいる。彼自身、幼いころから司祭になることを志し、1898年9月、オランダ南部のボックスメルで履足カルメル会に入会。修練期の間、アピラの聖テレジアの著作に親しむようになり、その翻訳を手がけ始めた。1905年司祭叙階、1909年、ローマの教皇庁立グレゴリアン大学で哲学博士号取得。オランダに帰国して、神学生の養成に携わる。教授職の傍ら、カルメル誌を創刊し、1916年には、アピラの聖テレジアの著作の翻訳を進めるためのグループを結成、他方で地元の新聞の編集者にも選ばれるなど、ジャーナリズムの分野でも活躍する。1923年に創立されたナイメーヘン・カトリック大学の設立にも関わり、哲学と神秘神学史を教えた。

ジャーナリストとしては、世界の善益のためにメディアを積極的に活用し、真実を公言してナチスに抵抗、ナイメーヘンでは学生から慕われる教授であり、神秘神学の講義においては、自身の深い祈りの生活の実りを語っていることを感じさせていた。カルメル会においては、共同生活を重んじ、すべての勤行に参加した。十字架の神学に深い興味を抱いており、それは、彼の未来を準備することとなったようである。

1942年1月、ナチスにより逮捕される。彼は自分を逮捕しに来た人をも許し、イエスの足跡に従った。ナチスは彼を最も危険な敵対者とみなし、収容所を転々とさせた。獄中で、詩を書き残した他、アピラの聖テレジアの伝記を書き始めたが、未完のまま終わっている。8世紀にフリースラントの地に初めて信仰を伝え殉教した聖ボニファチウスをまつる教会のために書かれた十字架の道行きの黙想も、獄中でしたためられたものである。1942年7月26日、ダッハウ強制収容所で石炭酸の注射により殉教、訪れるところには、どこにでも——ダッハウにさえ——幸福をもたらしたその生涯を終えた。1985年11月3日、教皇ヨハネ・パウロ2世により列福。聖テレジアと十字架の聖ヨハネを深く愛したテトスの列福は、履足・跣足の両カルメル会にとって大きな喜びとなった。



囚人服姿の福者テトス・ブランズマ

—— 祈り ——

十字架の道行きの黙想——聖ボニファチウス教会のために

第7留 イエス 再び倒れる

おお、イエス、あなたは、十字架のもとにただ一度だけ倒れるだけでは十分でないとお考えになりました。それは、敵対者たちが、あなたの無力さを見てほくそ笑むことができるようにするためでした。十字架を担うのを助けてもらいながらも、再びあなたがお倒れになるのを私たちは見ます。助けがあっても、あなたの肩の荷は依然として重く、あなたを押しつぶすほどであることを、私たちにお示しになるためでした。

おお、マリア、あなたの愛する御子に十分な助けが与えられないことを、どれほど嘆き悲しんでおられることでしょうか。あなたは、誰か、御子の肩から重い荷を完全に取り去ってくれる人はいないかと、あたりを見回されたことでしょうか。そして、シモンに、十字架の荷をすっかり引き受けてくれるようにと、お願いになったに違いありません。

おお、聖ボニファチオ、あなたが、ご自分に課された苦しみから後ずさりして逃げようとしたとき、再び十字架の下にお倒れになったイエスの模範が、あなたを新たに力づけてくれたに違いありません。この模範が、弱さに直面し苦しみから逃げようとするとき、私たちをもいつも励ますものとなりますように。

おお、心優しく……イエス……(訳注:この後は、省略されている)。

第8留 イエス 泣いている婦人たちを慰める

おお、イエス、あなたは、あなたに同情して共に十字架の道を歩む婦人たちに話しかけられました。そして、彼女たちを通して、私にも語りかけてくださったのです。「わたしのために泣くな。むしろ、自分と自分の子供たちのために泣け。『生の木』さえこうされるのなら、『枯れた木』はいったいどうなるのだろうか」と。あなたが、『『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るわけではない。わたしの天の父の御心を行う者だけが入るのである』とも言われたことを、私は覚えています。あなたの聖なる御苦しみに同情を示すだけでは不十分なのです。私は、自分の意思があなたのご意思に沿うようにし、あなたがお送りになる悲しみと試みを、寛大な心をもって、あなたの御手からお受けし、あなたと一致して、それらに耐えなければなりません。あなたはぶどうの木、私たちはその枝であり、もしあなたにつながっていなければ、枝は枯れて捨てられるのです。

おお、マリア、あなたは、御子に対する共感を示されただけでなく、御子とともに、十字架の道を歩まれました。私にも、あなたと共に十字架の道を歩ませてください。

おお、聖ボニファチウス、あなたは、十字架の道で立ち止まりました。しかし、あなたの救い主であり鑑(かがみ)であるお方に一致して、そのお方の御手から苦しみと死をお受けになりました。あなたの模範によって、私を強めてください。

おお、心優しく……イエス……(訳注:この後は、省略されている)。

* * * * *

この記事は、跣足カルメル在世会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(泰阜カルメル会訳・編)

いのちの言葉 5月

心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、
あなたの神である主を愛しなさい。

(マタイ22・37)

「聖書に数ある掟の中で、一番大切なのはどれか」というテーマは、イエスの時代、律法学者の間でよく議論されたことでした。師であるイエスは、「どの掟が律法の中で最も重要でしょうか」という質問に対し、はぐらかすことなく、お答えになります。彼の答えは独特で、神への愛と隣人への愛を一つに結ぶものでした。イエスに従う者は、この二つの愛を決して切り離してはならないのです。木の茂みの部分と根の部分の切り離して考えられないのと同じです。私たちが神を愛すれば愛するほど、兄弟姉妹への愛は一層強くなっていき、また兄弟を愛すれば愛するほど、神への愛も深まっていきます。

私たちが愛すべき神が本当はどのような方か、そして神をどう愛すべきか、イエスは他のだれよりもよくご存知でした。神は、イエスの父、私たちの父でおられ^(*1)、一人ひとりを個人的に愛してくださいます。神は私を愛し、あなたを愛しておられます。「あなたの神である主を愛しなさい」とあるように、「私の」神、「あなたの」神でおられるのです。

神は私たちが先に愛してくださったので、私たちが神を愛することができます。ですから、私たちが神に差し出すべき愛とは、愛である神に私たちがこたえることです。イエスが「アッバ、父よ」と呼ばれたような親しみと信頼を持って、私たちが神に向かうことができますでしょう。私たちがイエスのように、しばしば神と語り、自分に必要なことを打ち明けたり、決意や計画を話したり、だれよりも神を愛していることを繰り返し伝えたりできるでしょう。また私たちが、神との深い交わりを持つために、祈りの時が待ち遠しくなるでしょう。祈りは、神との対話、親しい交わりのひとときです。その時私たちは、神へのあふれる愛を注ぐことができます。自然の彼方に神をたたえ、世界のあらゆる場所に存在される神をあがめ、私たちの心

や聖櫃^{ひこばこ}の中におられる神を賛美することができます。また、自分の部屋や職場、オフィスにいる時も、他の人たちと一緒に過ごす時にも、神が共にいてくださることを思い起こします。

「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。」

主である神を愛するため、イエスはもう一つの方法も教えてくださいました。イエスにとって、「愛する」とは、思いも心もエネルギーも、命すらもかけて「御父のみ旨を果たす」ことでした。イエスは、御父が持っておられたご計画のために、ご自分のすべてをお与えになったのです。福音には、イエスが常に完全に御父の方に向かっておられた^(*2)姿が描かれています。イエスは常に御父の内におられ、御父から聞いたことだけを語り、御父から言われたことだけを成就されました。私たちに、同じことが求められています。愛するとは、愛するお方の望みを果たすことです。それも中途半端ではなく、私たちのすべてを尽くし、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」果たすのです。愛は感情だけに終わるものではないからです。「わたしを『主よ、主よ』と呼びながら、なぜわたしの言うことを行わないのか」^(*3)と、イエスは、口先だけで愛する人々に問われます。

「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。」

このようにイエスが命じられることを、私たちはどう生きればいでしょうか。親に対する子のような親しい関係を、神との間に持つこともできるでしょうが、何よりも、私たちが神のお望みを果たすことにより、このみ言葉を実践できるでしょう。私たちがイエスがされたように、ただ御父の望まれることだけを果たすため、常に御父の方を向き、御父に耳を傾け、御父に

従順であることができるでしょう。

このように生きるため、私たちには、本当に徹底的な姿勢が求められます。神には「すべて」を差し出す必要があります、それ以下はありえません。心の「すべて」、精神の「すべて」、思いの「すべて」が求められるのです。これは、神が私たちに望まれることを、完全によく果たすことを意味します。

神のみ旨を生き、み旨と一つになるためには、自分の意思を燃やし尽くすことが、しばしば必要になります。今の瞬間と関係のないものが心や頭に浮かんでくる時、(何かのアイデア、感情や考え、思い出、物や人など)すべてをわきに置くことです。

こうして私たち皆が、今の瞬間に求められることに集中できるでしょう。話すこと、電話をかけること、人の話を聞くこと、手助けすること、勉強、祈り、食事や睡眠をとることもできませんが、脱線せずに、神のみ旨を生きることです。一つひとつの行いを、心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、欠けるところなく、しっかり完全に果たしましょう。何をしても、「愛」が唯一の動機となるようにしましょう。そうすれば私たちは、一日のどんな時にも、「神様、今、この行いを通して、私は心を尽くし、自分のすべてを尽くして、あなたを愛しました」と言えるでしょう。こうしてはじめて「私たちは神様を愛し、愛でおられる神様に、愛でこたえています」と言うことができるでしょう。

「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。」

神が、私たちの魂の中で、第一の場所を占めているかどうか、時おり振り返ってみるのも、このいのちの言葉を生きる上で役に立つでしょう。

では今月、私たちはどう生きればいいのでしょうか。神を唯一の理想・人生のすべてとして選び直し、第一の場所に置き直しましょう。そして、今の瞬間に完全に神のみ旨を果たしましょう。「私の神、私のすべてよ」「あなたを愛します」「私のすべてはあなたのものです」「あなたは神。私の、私たちの、限りない愛の神でおられます！」と心から言うことができるように。

キアラ・ルービック

* 1 ヨハネ 20・17 参照

* 2 ヨハネ 1・18 参照

* 3 ルカ 6・46

フォコラーレの創立者キアラ・ルービックが、2008年3月14日に帰天した後、彼女が過去に残した解説を「いのちの言葉」として取り上げています。今月の言葉は、2002年10月に発表されたものです

★ **いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。**

先月のいのちの言葉の体験談

「私たちが、その時その時の神のみ旨に全面的に心を向けるなら、他のすべてのものや自分自身への執着は消えていくでしょう。」といのちの言葉にありました。

駐車場で車の接触事故を起こしましたが、すぐ後に大切な集まりがあったので、相手の方と後で会う約束をして集まりに出かけました。今起こった出来事に執着しないで次のみ旨に飛び込むことが出来るよう祈りながら運転していると、次第に心が落ち着いてくるのを感じました。集まりでは、先ず目の前に居る人たちを愛することだけに心を注いで、後で事故のことを話すと、みんなは私の落ち着いた態度に驚いていました。集まりが終わり、約束していた警察署に向かう途中、今度は助手席の友人がシートベルトをしてなかったので、警察の取り締まりに捕まりました。時間が迫っていたので焦る気持ちもありましたが、「気にしないで。今の瞬間のみ旨を生きるチャンスよ」と友達に伝えると私の心も平和になりました。結局、車の修理に私の負担は全く無く、その上以前から修理が必要だった所も直って戻ってきました。この出来事の中にも神様の愛があるのを感じました。(F)

★ お知らせ

「いのちの言葉」の集い

日時：5月8日(日)

14:00(13:30 受付)

場所：カトリック大和教会

(小田急線「南林間」下車)

連絡先

フォコラーレ: 03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail: tokyo.focfem@ybb.ne.jp

ホームページ: [フォコラーレ](#) で検索

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (48)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

グラナダからマドリッドへ

1586年、彼がアンダルシア管区長代理であった時、マドリッドに聖アンナ修道院を創立するため出かけたイエズスのアンナ修母とその他の修道女のお供をしました。彼は、旅の全部ではなく、その一部分だけ彼女たちに同伴しました。

この旅の間でも、祈りや霊的生活や神の神秘についてのヨハネ修士の話は、修道女たちの注意を引き起こし、「私たちの、天の歌い手、音楽家に耳を傾けましょう」と言われるほどでした。

聖人とともに旅をし、旅の最後の部分であるマラゴンからマドリッドまでお供をした聖アウグスティヌスのイネス修士は、こう語っています。「私は、尊敬すべき十字架のヨハネ修父を知っており、交わり、何度か告解をしました… マドリッドの創立のためにお供をした時、私たちは神についての言葉以外は何も聞きませんでした。そこで私たちは神のヒワ（訳注：鳥の名）と呼びました。マドリッドでも彼とずっと一緒でしたが、その定義通り、全く同じでした。彼はとても優しい人でした」。

すでに私たちは、十字架の聖ヨハネに関する一連の呼び名、あるいは独自の連祷のために行えるものを持っています。すなわち、

- 天の歌手、天の音楽家
- 神のヒワ
- 神の文書庫
- 「神のセイレン」（訳注：美声で船人を魅惑し難波させた人魚）と、別の機会には呼ばれていました。



新刊紹介

神と人びとへの 燃える愛の心からあふれたでた短い言葉集

テレーズの短い人生のなかで残された言葉が
四季の花々のように光をあび、輝いています。

毎日美しい1日をはじめるために 愛と信頼、委託、喜びの言葉！



レイモンド・ザンベリ / 編
伊従 信子 / 編訳

女子パウロ会出版 391 ページ

「カルメル」
2011
今日の霊性・春号



2011 春 No.340

● 目次 ●

		● 目次 ●			
		《二〇一一年特集 マリー・エウジェンヌ》			
		み言葉に問われる者			
		——幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師と福音書			
		ジャン・フランソワ・ルフエール			
		編・訳 中山 眞理			
		3			
		聖性への招き 十字架の聖ヨハネに導かれて (6)			
		変容までの長い道のり マリー・エウジェンヌ			
		編・訳 伊従信子			
		11			
		「キリストの証し人、洗礼者ヨハネ」			
		——ヨハネ福音書一章二九〜三四節			
		九里 彰			
		17			
		修道院生活 春夏秋冬 (1)			
		高橋重幸			
		24			
		カルメルの霊性の源流を探して (3)			
		——その「会則」に見る生活			
		中川博道			
		31			
		乙女、使徒、殉教者たちの女王である勝利の聖母に			
		ペトロ・アロイジオ			
		37			
		死に臨む言葉			
		——エディット・シュタインの			
		アウシュヴィッツへの道ゆき (2)			
		須沢かおり			
		43			
		無知であることの涙			
		森 みさ			
		50			
		愛の断章 (19)			
		奥村一郎			
		56			

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円 (+送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+送料【700円】計 3,000円)を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

カルメル会の企画案内



上野毛霊性センター ～ '12年3月

黙想企画 ** 聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 一泊聖書深読指導：新井延和神父

(毎回金曜日夕食～土曜日16時)

2011年

6月17日～18日

9月 9日～10日

11月11日～12日

2. 奉献生活者のための黙想会

2011年

7月31日(日)夕食～8月 9日(火)朝 中川博道神父

8月11日(木)夕食～8月20日(土)朝 福田正範神父

12月27日(火)夕食～1月 5日(木)朝 福田正範神父

3. 木曜黙想会(毎回木曜日10時～16時)

2011年度共通テーマ 《いのち》

6月16日 「いのちの言葉」 福田正範神父

9月15日 「ほまれある長寿 ー知恵の書4章8～9節についてー」 ベルナルド神父

11月17日 「いのちであるお方とともに」 古川利雅神父

2012年

1月26日 「永遠のいのち ー霊から生まれた者は霊であるー」 中川博道神父

4. 金曜黙想会カルメルの聖人(毎回金曜日10時～16時)

2011年

7月 8日 「神の預言者聖エリヤ」 ベルナルド神父

10月28日 「福者三位一体のエリザベット」 古川利雅神父

12月16日 「十字架の聖ヨハネ」 福田正範神父

2012年

2月17日 「幼きイエスの聖テレジア」 カルメル会士

5. 青年黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

7月16日(土)15時～ 7月18日(月)15時

11月25日(金)18時～11月27日(日)15時

6. 召命黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

10月8日(土)15時～10日(月)15時

7. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2011年12月24日(土)～25日(日)《講話なし、夕食なし》

8. 特別黙想会 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

テーマ:「私は神を見たい」

10月14日(金)20時～16日(日)16時 「祈り」

14日は夕食を済ませてご参加ください。

9. 待降節黙想会

12月 9日(金)夕食なし～11日(日)昼まで 指導:古川利雅神父



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までにお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません
のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp



木曜黙想会

2011 年度共通テーマ 《 いのち 》

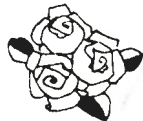
.....いのちの言葉.....

日 時：2011 年 6 月 16 日（木） 10 時～16 時

指 導： 福田正範 師（カルメル会上野毛修道院司祭）

場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院
（黙想の家）

会 費： ￥3500（昼食を含む）



お問合せ・・・TEL.03-5706-7355

FAX. 03-3704-1764

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

お申込み・・・FAX、メール、ハガキにてお願い致します。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

聖書深読黙想会

〈一泊〉

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。
指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。
聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、福音を生きたることです。皆様のご参加をお待ちしています。

* 日時：2011年6月17日（金）18時～18日（土）16時
（曜日が金曜～土曜日となりましたのでご注意ください）

* 場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家

* 指導：新井延和師（カルメル会司祭）

* 会費：¥7000

* 持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。



参考書：「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎著 ¥1050）

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。



お問合せ・お申込は、TEL、FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

Tel.03-5706-7355

Fax.03-3704-1764

カルメル青年黙想会

「マリアの生涯」

～見よ、あなたの母を～



バルトロメ・エステバン・ムリヨ作
「カルメル山の聖母」

- 日時： 7月16日(土)15時～7月18日(月)15時
場所： カルメル会聖テレジア修道院(黙想)
(東急大井町線上野毛駅下車)
- 対象： 青年男女(35歳まで)
定員： 20名
費用： 一般 10,000円 学生 7,000円
締切： 7月9日(土) <必着>
指導： 福田正範神父・カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、
ハガキ・FAX・Eメールのいずれかで下記まで。
折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会聖テレジア修道院(黙想)
電話 03 (5706) 7355
FAX 03 (3704) 1764
Email: mokusou@carmel-monastery.jp



2011年

「キリスト教の基本を学ぶ」

— 洗礼準備の為、又キリスト教の基本を学びなおす為に —

対象：どなたでもご参加ください

指導：中川 博道 (カルメル修道会)

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館ホール)

いずれも 金曜日

朝のクラス <<10:30~12:00>> 夜のクラス <<19:30~21:00>>

	月日	テーマ	聖書箇所
1	5月27日	「聖書への親しみを持つことから」	
2	6月10日	「天地創造の物語を読む」	創世記 1章1節~2章3節
3	6月24日	「あなたは誰？」(1) 聖書の人間へのまなざし	創世記 2章3節b~2章25節
4	7月8日	「あなたは誰？」(2) 聖書の人間へのまなざし	
5	7月22日	「人間の問題性」(1) 人間存在の根源的なずれとゆがみ	創世記 3章
6	7月29日	「人間の問題性」(2) 兄弟性のゆがみ「カインとアベル」	創世記 4章
7	8月26日	「信仰を生きるとは？」 信仰の祖 アブラハム	創世記 12章
8	9月2日	「人間の問題性に関わる神」 聖書のメインテーマとしての「脱出」	出エジプト記 1章~3章
9	9月16日	「イエス・キリストに会う」 最初にイエスに会った人々	ヨハネ 1章 35節~42節
10	10月7日	「福音が語るイエス・キリスト」 天地人への関わりを生きるキリスト	
11	10月21日	「イエス・キリストの自己理解」 イエスの名の由来 イエスの残されたものとおして	マルコ 10章 45節 I コリント 11章 23節~26節
12	11月4日	「キリストに近づく」 — 洗礼と永遠の命 —	ヨハネ 3章 1節~21節
13	11月18日	「教会：キリストに呼び集められた人々の集まり」(1) キリスト者の原型としてのマリア	ルカ 1章 26節~38節
14	12月2日	「教会：キリストに呼び集められた人々の集まり」(2) 教会共同体の原型としてのエリザベトとの出会い	ルカ 1章 39節~56節

<お問合せ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>

聖書講座

「キリストとの親しさ」

—出会いの神学—

キリストと出会った人々の姿を 聖書をとおして迎えます

担当：中川 博道（カルメル修道会）

どなたでも いつからでもご参加ください

2011年 予定表

場所：カトリック上野毛教会（信徒会館）

朝のクラス（火曜日）

夜のクラス（金曜日）

《10:30～12:00》

《19:15～20:45》

6月 7日	6月 3日
7月 5日	7月 1日
9月 13日	9月 9日
10月 11日	10月 14日
11月 8日	11月 11日
12月 6日	12月 9日

<お問い合わせ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>



「カルメルの靈性に親しむ」

—カルメルの靈性をとおして イエスとの出会いの道を探します—

担当：中川 博道 (カルメル修道会)

どなたでも いつからでもご参加ください

2011年 予定表

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館)

朝のクラス (火曜日)

夜のクラス (金曜日)

《10:30~12:00》

《19:15~20:45》

5月17日	5月20日
6月14日	6月17日
7月12日	7月15日

<お問い合わせ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>

キリスト教放送局放送中
ラジオ (月) 夜 10:15~
インターネット放送 いつでも

キリスト教放送局
FEBC

2011.4.3~2011.10.1

●インターネット放送● www.febcjp.com ●ラジオ放送● **AM1566kHz**
24時間、いつでも聞けます 毎日更新 毎夜9:30~10:45 全国放送



今を生きる
キリストを求めて

中川博道神父

2011年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

【一般のための黙想】 1泊2日 (午後5時～午後4時)

7月 2日(土)～ 3日(日) 今日を生きる	新井延和神父
9月 3日(土)～ 4日(日) 人を赦すこと	九里彰神父
11月19日(土)～20日(日) ユダヤ人の王	新井延和神父

【聖書深読黙想会】

- 1日黙想 (午前10時～午後4時)

6月11日(土)	松田浩一神父
10月 8日(土)	九里彰神父
12月10日(土)	新井延和神父

- 水曜の黙想 (午前10時～午後4時)

6月22日(水) 三位一体	新井延和神父
7月13日(水) 幼子の心	九里彰神父
9月14日(水) 私たちの生活と十字架	松田浩一神父
10月12日(水) ロザリオの祈り	松田浩一神父
11月 2日(水) 死とは何か	新井延和神父
12月14日(水) 愛の生ける炎	九里彰神父

- 待降節の黙想 (午後5時～午後4時)

12月 3日(土)～12月 4日(日)	松田浩一神父
---------------------	--------

- 聖テレーズの黙想 (午後5時～午後4時)

9月30日(金)～10月 1日(土)	伊従信子師
--------------------	-------

【青年のためのキリスト教霊性】 (午後5時～午後4時) 対象：40歳以下の青年男女

11月5日(土)～11月6日(日)	松田浩一神父
-------------------	--------

【奉獻生活者の黙想】 (午後5時～午前9時)

8月 3日(水)～ 8月11日(木)	松田浩一神父
8月18日(木)～ 8月26日(金)	九里彰神父
12月27日(火)～ 1月 4日(水)	新井延和神父

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールで お名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

— 日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

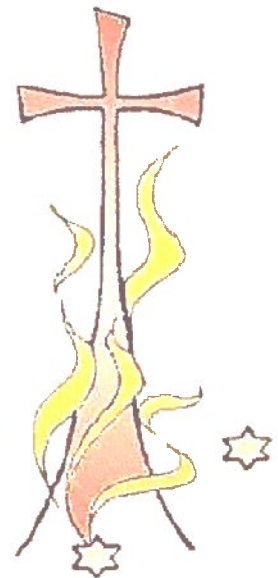
【参加者人数】

6人

【開催日】

- | | | |
|---|-------|-------------------|
| ① | 2011年 | 1月21日(金)～22日(土) |
| ② | | 2月18日(金)～19日(土) |
| ③ | | 3月25日(金)～26日(土) |
| ④ | | 4月15日(金)～16日(土) |
| ⑤ | | 5月13日(金)～14日(土) |
| ⑥ | | 6月17日(金)～18日(土) |
| ⑦ | | 7月22日(金)～23日(土) |
| ⑧ | | 9月 9日(金)～10日(土) |
| ⑨ | | 10月28日(金)～29日(土) |
| ⑩ | | 11月11日(金)～12日(土) |
| ⑪ | | 12月16日(金)～17日(土)★ |
| ⑫ | 2012年 | 1月13日(金)～14日(土) |
| ⑬ | | 2月10日(金)～11日(土) |
| ⑭ | | 3月16日(金)～17日(土) |

(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 5,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

～都会の中の一泊静修～（2011）

「私たちの間にある神の国を探して」—今の時代に芽生える神との新たな出会い—

「神の国は見える形では来ない、『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない。実に、神の国はあなたがの間にあるのだ」（ルカ17章21節）

“混乱の時代” “行き詰まりの時代” “崩壊の時代”・・・と言われる時代の中にも、「見よ、わたしは新しい天と新しい地を創造する。初めからのことを思い起こす者はない。それはだれの心にも上ることはない。」

（イザヤ65章17節）という神のみ言葉は力強く響き始めています。第2バチカン公会議終了後やがて半世紀を迎える現代世界と教会の中に、新しい神との出会いは生まれ始めています。

2011年はこの「神の国の芽生え」を私たちが日常生活の中に探す光を共に探しつつ歩みたいと思います。

第1回	1月10日(月・祝)	混沌の中に差し込む光(創世記1章)	中川博道神父 (上野毛修道院)
第2回	2月26日(土)	主が示される地に向かって(創世記12章)	松田浩一神父 (宇治修道院)
第3回	3月12日(土)	絶望の中の光(イザヤ43章、65章)	高山貞美神父 (聖心布教会)
第4回	4月9日(土)	新しい派遣(列王記19章)	新井延和神父 (宇治修道院)
第5回	5月5日(木・祝)	新しい契約(エゼキエル36章)	今泉健神父 (上野毛修道院)
第6回	6月25日(土)	神の国の芽生え(マルコ4章)	三上和久神父 (三馬修道院)
第7回	7月18日(月・祝)	わたしの中に生きるキリスト(ガラテア2章)	ポクダン神父 (南山教会)
第8回	9月17日(土)	キリストの新しい錠(ヨハネ13章)	Sr.パウルナ(宣教カルメル修院)
第9回	10月22日(土)	新しい生活(改革)、アブリラの聖テレジア	松田浩一神父 (宇治修道院)
第10回	11月23日(水祝)	新しい生き方の根、十字架の聖ヨハネ	九里章神父 (宇治修道院)

* 時間 AM10:00~PM4:00

* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接

* 参加費 1,000円

* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当

* 定員 約30名

* プログラム

- 10:00~ 祈り・導入・黙想
- 10:30~ 講話(1)
- 黙想・赦しの秘跡または面接
- 11:50~ 昼の祈り・お告げの祈り
- 12:15~ 昼食
- 12:50~ 黙想・赦しの秘跡または面接
- 13:30~ 講話(2)
- 14:45~ ミサ
- 15:30~ 茶話会・分かち合い
- 16:00~ 終了予定

☎ 申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市中熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825

一日静修連絡係 〒465-0058 名古屋市中東区貴船3-2115 小林 厚・晃子

TEL・FAX 052-701-3685

2011年度名古屋聖書深読会

第1回 5月28日(土) 新井延和神父(宇治修道院)

第2回 10月29日(土) 新井延和神父(宇治修道院)

- 時間 午前10時～午後4時
- 場所 カトリック日比野教会
地下鉄名城線日比野下車、徒歩約5分 *聖テレジア幼稚園隣接
- 参加費 ￥1000
- 持ち物 聖書・筆記用具・ノート・昼食等

* 毎回、事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

* 申し込みは、開催日の3日前までに Fax またはハガキで下記へお願いします。信徒の方は、所属教会名も記載下さい。

* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

☎ 申し込み先

名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院

FAX 052-671-1825

☆連絡係

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115

小林 厚・晃子

TEL/FAX 052-701-3685

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



<< Communications (時事通信) >>

フランソワ・マリ・レテル神父への感謝状と教皇特別謁見

教皇ベネディクト16世は、跣足カルメル修道会の総長とローマのテレジア・ヌム（カルメル会国際シン学院）の跣足カルメル会士の教皇特別謁見を受けられました。

2011年4月13日 ローマ発：

教皇ベネディクト16世は、5月19日に跣足カルメル修道会の総長とテレジア・ヌム共同体の教皇特別謁見を受けられることを、フランソワ・マリ・レテル神父への手紙で通知されました。

フランス人跣足カルメル会士であるレテル神父は、カルメルファミリーの全ての女子跣足カルメル修道会と男子跣足カルメル修道会、および今年3月に彼の指導による黙想会（教皇と教皇庁官僚に対してなされた）に参加された全ての友人達に宛てた公の書状で、教皇は跣足カルメル修道会の総長とテレジア・ヌムのメンバーの教皇特別謁見をお受けになる、という格別の恵みを頂いたことを知らせました。

レテル神父は手紙の中で、彼がその時の最も緊張した体験を述べ、教皇からの信頼を得て霊操の説教を引き受けたことは、修道誓願、司祭叙階とともに彼の生涯で最も大きな特別の恵みであったと回想していました。

レテル神父は、教皇庁官僚の前での印象とその関りについても記述し、教皇から四旬節黙想の終わりの聖ヨゼフの祝日に贈られたお礼状も添付しました。彼の手紙全体の内容はこのHPニュース掲示板に添付されており読む事ができます。
<http://www.carmelitaniscalzi.com/vernoticia.php?id=3105>





14世紀写本

6月19日 三位一体の主日

6月26日 キリストの聖体

諸所の企画案内



心のいほり

真命山霊性交流センター

リーゼンフーパー神父キリスト教講座

ノートルダム・ド・ヴィ

マリアの御心会

ノートルダム教育修道女会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。

記載には注意を期しておりますが、

詳細は各問い合わせにご紹介下さい。

よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

2011年(6泊7日) 午後2時より 終了日午後2時迄

K3 06/03(金)-06/09(木) 東京・小金井・聖霊会

★N2 06/24(金)-06/30(木) 滋賀・唐崎・ノートルダム

N韓 07/06-12 韓国グループ向け限定内観 滋賀・唐崎・ノートルダム

Y2 07/18(月)-07/24(日) 神戸・須磨・ヨハネ

S韓 08/13-19 韓国グループ向け限定内観 長野大鹿村・早々庵

S1 08/21(日)-08/27(土) 長野大鹿村・早々庵

M3 09/11(日)-09/17(土) 兵庫・売布・女子ご受難会

N3 09/24(土)-09/30(金) 滋賀・唐崎・ノートルダム

K4 10/07(金)-10/13(木) 東京・小金井・聖霊会

★N4 10/20(木)-10/26(水) 滋賀・唐崎・ノートルダム

F1 11/4-9 福岡・黙想の家 (5泊6日)

N5 11/15(火)-10/21(月) 滋賀・唐崎・ノートルダム

K5 11/28(月)-12/04(日) 東京・小金井・聖霊会

M4 12/11(日)-12/17(土) 兵庫・売布・女子ご受難会

2012年予定

M101/13(金)-1/19(木) 兵庫・売布・女子ご受難会

K101/24(火)-1/30(月) 東京・小金井・聖霊会

真命山の霊性



自然

神はすべてを作り
人の手に委ねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで

祈り

静けさ

沈黙の中に神の
言葉を聞こう

信仰体験を
分かち

交わり

指導者
フランコ・ソットコルノラ神父
(真命山院長)
ダニエレ サルティ・サルトリ
神父
Sr.マリア デ・ジョウルジ



通年のテーマ：

典礼暦年間で教会とともに祈る

祈りの集い（毎回午前10時～午後2時半）

06月 09日 聖霊降臨の祭日

07月 14日 聖人の記念日 - 2

09月 08日 聖人の記念日 - 3

10月 13日 日曜日：主の日

11月 10日 待降節 - 1

12月 08日 待降節 - 2

申し込み先

865-0133

熊本県玉名郡和水町1391-7

真命山諸宗教対話・霊性交流

センター

TEL 0968-85-3100

Fax 0968-85-3186

E-mail: shinmeizan@chive.ocn.nc.jp

個人またはグループでの黙想会や研修会も
歓迎いたします。

(要予約)

リーゼンフーバー講座・集いの案内 2011年

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階。キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、

9時30分～12時30分、岐部ホール4階404、
19・20世紀近代・現代のキリスト教関係の
思想・哲学・神学を考察します。思想史とキリスト教の関係に関心を持っている方、プログラム等に関してHP(文末)を見て下さい。

夏学期: 古代末期教父時代(2-7世紀)

5/28、6/4、6/18、7/2、7/9、7/23、9/3、9/10

●坐禅会

月曜日 17時20分～20時10分

木曜日 18時～20時30分

(祝日、4月21日を除く)

場所: 上智大学内 Kulturlauf 1階正面左の部屋

3回坐り、間に講話があります。

初心者も歓迎です。遅刻も不定期の参加も可。

●接心

秋川神冥窟 1泊2400円程度

関東

06月24日(金):20時30分-26日(日) 10時

08月07日(日):20時30分-14日(日) 10時

09月21日(水):20時30分-25日(日) 10時

11月02日(水):20時30分-11月6日(日) 10時

関西

7月30日(土)17時30分-8月5日(金)13時 宝塚市

連絡先 シスター田中 電話 0797-84-3111

●ミサ 水曜日 17時10分～18時

上智大学内 Kulturlauf 1階右小聖堂

どなたでも。但し祝日、8月全体、9月21日、11月2日、1月4日は休み。

●ミサ後の黙想

18時～18時30分 上智大学内 Kulturlauf 1階右小聖堂

どなたでも。但し祝日、8月全体、9月21日、11月2日、1月4日は休み。

●祈りの集い 下記の土曜日

13時30分～16時 上智大学内 SJハウス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。

6月4日、7月9日、8月6日、9月10日、10月8日、11月12日、12月3日、

2012年1月7日、2月18日、3月10日

●ロザリオの祈り 同日16時10分～50分

上智大学内 Kulturlauf 1階右小聖堂

●黙想

【会社帰りの黙想】

毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時

聖イグナチオ教会 マリア聖堂、どなたでも。

但し祝日、8月9日休み。8月23日は上智大学内 Kulturlauf 1階右小聖堂。

【お昼の黙想】 毎月第1・3火曜日

10時40分～12時 聖イグナチオ教会

マリア聖堂 但し祝日、8月2日は休み。

●黙想会

6月11日(土)10時～12日(日)15時(上石神井)

9月17日(土)10時～18日(日)15時(東村山)、

11月26日(土)10時～27日(日)15時(東村山)、

2012年 2月4日(土)10時～5日(日)15時(東村山)

* 1泊5900円程度

【関西】 10月1日(土)13時～2日(日)15時(宝塚)

●アガペ会

6月18日(土)

10月22日(土)

2012年 1月21日(土)

説明会・集い(13時半～): 上智大学内 S.J.ハウス第5会議室

ミサ(17時～): Kulturlauf 1階テレジア聖堂

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

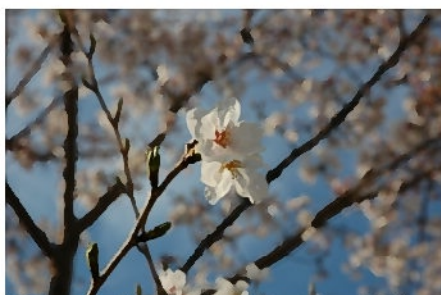
リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座 2011年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 06/03 新約聖書の神理解— 主なる父
- 06/10 祈りによる神理解— 神の偉大さと近さ
- 06/11-12 黙想会(上石神井)
- 06/17 救い主の役割— 人類の待望
- 06/24 神の国— イエスの告げるメッセージ
- 07/01 イエスの生き方— 神に遣わされて人に仕える
- 07/08 イエスの人間関係— 罪人と弟子と共に
- 07/15 イエスは誰か— イエスの自己理解
- 07/22 最後の晩餐— 自分を与えるイエス
- 07/23 感謝のミサ(14時、上智大学内 Kulturlounge 2階、80人限定)
- 07/29 イエスの受難— その史実と意図
- 08/05 イエスの死— その救済的意義 / 上智大学内 Kulturlounge 2階
- 08/12 休み
- 08/19 イエスの復活— 今に生きるイエス / 上智大学内 Kulturlounge 2階
- 08/20-28 通う霊操 (18時-20時45分) / 上智大学内 Kulturlounge 2階
- 08/26 聖書のイエス像— ヨハネの見たイエス / 上智大学内 Kulturlounge 2階



リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座 2011年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

倫理的行為

- 06/07 行為の規範— 人間らしさと神の呼びかけ
- 06/11-12 黙想会(上石神井)
- 06/21 自己実現— 責任と自由
- 07/05 性格の形成— 自己受容と善への憧れ
- 07/19 人間の弱さ— 誘惑と罪
- 07/23 感謝のミサ(14時) / 上智大学内 Kulturlounge 2階
- 08/02 休み
- 08/16 魂の癒し— 恩寵・心の入れ替え・ゆるし / 上智大学内 Kulturlounge 2階
- 08/20-28 通う霊操 (18時-20時45分) / 上智大学内 Kulturlounge 2階

根本的態度

- 08/30 人生を生きる基盤— 信仰と希望
- 09/06 唯一の掟— 愛による完成
- 09/17-18 黙想会(東村山)
- 09/20 基本的な態度— 判断力・勇気・節制
- 10/04 共同存在— 共通善・正義・奉仕
- 10/18 個人の道— 自己の課題の探究と聖霊の導き

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通)

-5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

●「いのちの泉へ」 すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。

7月9日(土)

講話 伊従信子
午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

余震などの影響で、急遽中止になる事も考えられます。参加をご希望の方は、当日の午前～2時迄にお電話かFAXでこちらまでご連絡頂けますと幸いです。

申し込み・お問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ
〒177-0044
練馬区上石神井4-32-35
TEL(03)・3594・2247
Fax(03)・3594・2254
E-mail notredamedevic.japan@gmail.com
ホームページ
<http://www.ndv-jp.org/>

カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

マリアの御心会

「来て、見なさい」

「私はあなたと共にいる」

—主よ、私の道はどこに—

祈りと分かち合い

テーマ

： 神のみこころ 6/12(日)
： 人々の中の私 7/10(日)

時間：14:00～17:00 *ミサはありません。

対象： 自分の道を探している

35歳までの独身女性

場所： マリアの御心会 (JR信濃町下車3分)

会費：各回500円

担当：マリアの御心会会員

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel: 077-579-7580
Fax: 077-579-3804
E-メール: karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約13分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 了
- ② 了
- ③ 6月 23日 (木) ~ 7月 1日 (金)
- ④ 8月 14日 (日) ~ 8月 22日 (月)
- ⑤ 9月 23日 (金) ~ 10月 1日 (土)
- ⑥ 10月 19日 (水) ~ 10月 27日 (木)
- ⑦ 11月 14日 (月) ~ 11月 22日 (火)
- ⑧ 11年12月27日 (火) ~ 12年1月 4日 (水) 予定

B. 祈りの体験：週末3日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 了
- ② 了
- ③ 了
- ④ 了
- ⑤ 7月 22日 (金) ~ 7月 24日 (日)
- ⑥ 9月 2日 (金) ~ 9月 4日 (日)
- ⑦ 12月 2日 (金) ~ 12月4日 (日)

C. 講話 黙想(奉獻生活者のため)

5月27日(金)~6月4日(土) 裏辻 洋二 師 (イエス会)

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者：菊池 陽子(ノートルダム教育修道女会) 松本 佳子(ノートルダム教育修道女会)
その他 若干名

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい
方はご相談ください。(但し、上記の日程と7月30日～8月12日を除きます。)

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。



The vision of St John of the Cross
Baldassare Franceschini

十字架の聖ヨハネ

『霊性センターニュース』郵送ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。切手では受け付けておりません。これは、あくまでも郵送代実費です。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

編集後記

先日、仙台教区の小松神父のお話を伺った。現地での忙しいスケジュールをぬって、夜かけつけて来られた。それによれば、東日本大震災の支援のために仙台教区には現在、カトリック教会としては6つの支援センターがあり、その内、4つを仙台教区が運営しているとのことであった。他の機関と異なり、二泊三日のボランティアから受け付けているようで、初めは信者が大半であったのが、HPを通して信者でない人も参加するようになり、最近では比率が逆転したとのことであった。

何かをしてあげたいという善意はありがたいが、まず「見る」ことが必要だと強調されていた。教区や小教区として援助したいならば、まず代表が現場に行き、何が出来るかを見極めること。できればそこに住むこと。町や市の公的機関と接触し、その指示を仰ぎ、漁協や農協に行き、そちらの要望も聞くこと。被災地は500Kmにわたり、広範囲なので、接触する地域の限定は不可避とのこと。

ボランティアの仕事は、被害の少ない家の泥出しとか、避難センターで老人の話し相手や子供の遊び相手、食料等の配布など、復旧にそれほど大した影響はない。しかし、ボランティアの人々が来てくださることにより、「あなた方はひとりぼっちではない、私たちもあなた達と一緒にですよ」という連帯感が、お金ではかえりかけがえのないものではないかと話されていた。(P. 九里)



製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本／発送は、原則として毎月第四火曜日に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「7月号」製本日 **6月28日(火)** 上野毛教会信徒会館ホール 1階
午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171